

U.S. Indicators

発表日: 2019年5月1日(水)

米国 19年4月 ISM 製造業景気指数は大幅下振れ

～米製造業の減速傾向持続～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主任エコノミスト 桂畑 誠治 (Tel: 03-5221-5001)

ISM製造業景気指数

	総合	新規受注	生産	雇用	在庫	入荷遅延	受注残	仕入価格	輸出受注	輸入
18/09	59.5	61.5	63.1	58.2	53.3	61.6	55.7	66.9	56.0	54.5
18/10	57.5	58.0	59.3	56.5	50.7	63.2	55.8	71.6	52.2	54.3
18/11	58.8	61.8	59.9	57.7	52.9	61.5	56.4	60.7	52.2	53.6
18/12	54.3	51.3	54.1	56.0	51.2	59.0	50.0	54.9	52.8	52.7
19/01	56.6	58.2	60.5	55.5	52.8	56.2	50.3	49.6	51.8	53.8
19/02	54.2	55.5	54.8	52.3	53.4	54.9	52.3	49.4	52.8	55.3
19/03	55.3	57.4	55.8	57.5	51.8	54.2	50.4	54.3	51.7	51.1
19/04	52.8	51.7	52.3	52.4	52.9	54.6	53.9	50.0	49.5	49.8

(出所) ISM: the Institute for Supply Management

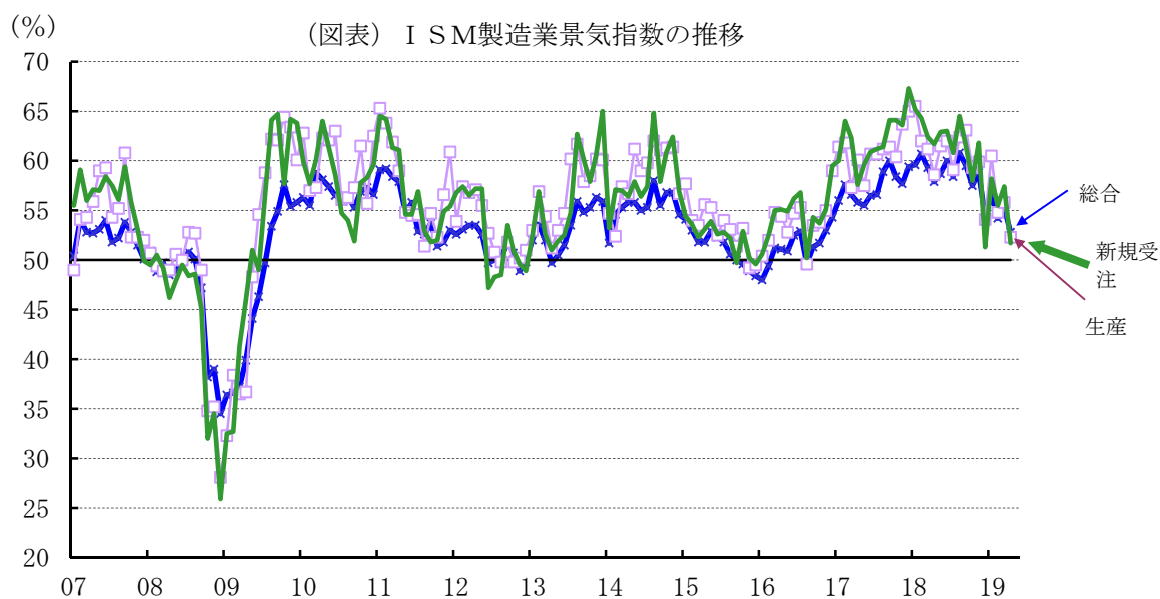
19年4月のISM製造業景気指数(季節調整値)は、52.8と前月比2.5%ポイント低下し市場予想の55.0を大幅に下回った(筆者予想54.5)。米製造業は、国内需要に支えられ拡大基調を維持しているものの、世界景気の減速等を受け、鈍化傾向を辿っている。また、関税引き上げや、メキシコ国境での通関手続きの遅れなどへの懸念を強めていることが報告された。

人手不足、貿易戦争等の影響により、在庫、入荷遅延が上昇したものの、内外需要の鈍化を背景に、重要項目である新規受注、雇用、生産が大幅に低下した。構成項目別の総合指数への寄与度をみると、在庫(前月比+0.22%p)、入荷遅延(前月比+0.08%p)が押し上げ寄与となった一方、新規受注(前月比▲1.14%p)、雇用(前月比▲1.02%p)、生産(前月比▲0.70%p)が押し下げ寄与となった。サブ項目では、主要国・地域の製造業活動の鈍化を受け、輸出受注DIが49.5、輸入DIが49.8とともに低下、50を下回っており、輸出入の鈍化を示唆している。

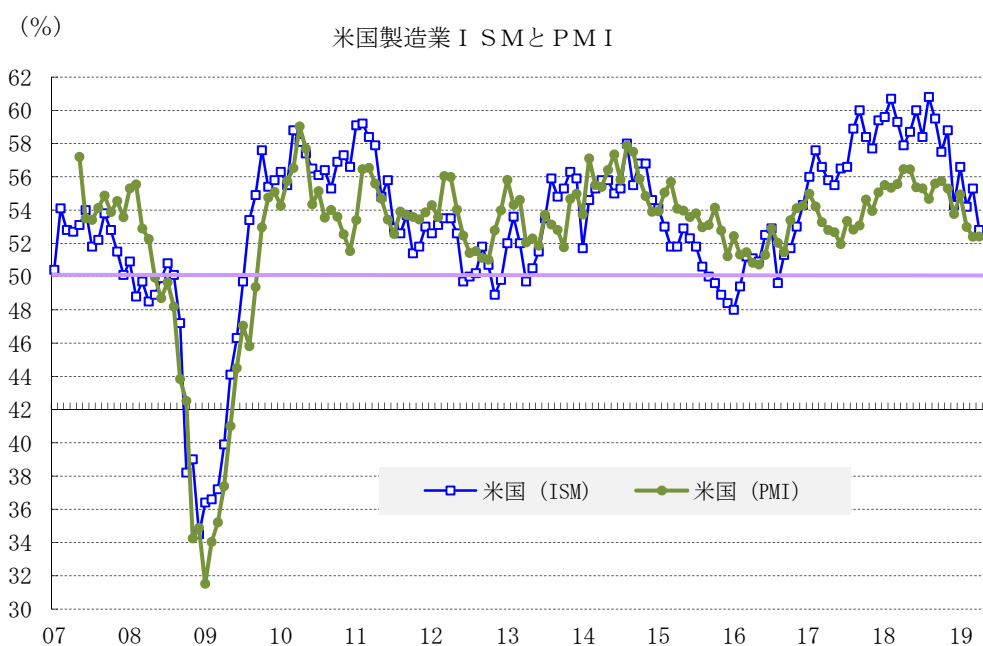
もっとも、総合指数を構成する新規受注、生産、雇用、在庫、入荷遅延が拡大縮小の分岐点である50を上回っているため、ISM製造業景気指数が製造業の拡大縮小の分岐点である50を依然上回っている。また、ISMによると4月の52.8という水準はこれまでのGDP成長率との関係から、実質GDPが2.9%成長していることを示していると指摘しており、米経済全体では依然過熱感の強い状態にあることを示している。

インフレ関連では、エネルギー価格の上昇にもかかわらず、ドル高、世界需要の鈍化によって仕入価格が前月から低下、50にとどまっておられ、川上での価格上昇圧力は弱いままである。

総合(全18業種、下線は拡大・縮小が2カ月以上続いたことを示す)で拡大した業種は、繊維、電気設備・部品、その他製造業、印刷・関連サポート活動、化学製品、非鉄、プラスチック・ゴム、一般機械、家具・同関連、食品・飲料・タバコ、コンピューター・電子機器木材製品、紙製品、加工金属の13業種と前月の16業種から減少した。一方、縮小した業種は、アパレル、一次金属、木材製品、石油・石炭、輸送機器の5業種と前月の2業種から増加した。



(出所) I S Mデータより当社加工



(出所) ISM、IHS Markit

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

